

国際・情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第2号

〒950-22 新潟市坂田字カタハタ46番地1 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp ホームページ <http://www.nuis.ac.jp>

新入生諸君に問う

学生部長 松崎 奈岐



「おれは今まで親の目、世間の目がいつも気になっていて、おれがやりたいことが本当になんなのか考えたことがない。だけど本当はおれにもやりたいことがあるのだ。世間の常識からはずれていることはわかっているけど、きょうは是非おまえにきいてほしいよ。」

「ぼく思うんだけど、人生には公式ってものはないんじゃないかな、きみの人生はきみにしかあてはまらないと思うよ。そのうえで、ぼくはきみの話をきこう。」

これは森鷗外のある小文の二節をうろおぼえて紹介したものである。友人の会話と思われるこの文章のなかで、私は二つのことを考える。

一つには、議論し、語る友人をもつ幸せである。若いとき、同年代の友人と語る安らぎと信頼はつねに人の思考を前向きに働かせ、エネルギーの盛り上がり胸を熱くする。その上、大学時代は目前の入試もないし、社会のモラルさえ踏み外さなければ、個人の責任のもとに自由が保証されているから、友人間の重苦しい競争は入り込むべきがないのである。人生のうちでこんなよい時代はない。その時代に得られる財産は友人である。キャンパスのなかでいろいろ

るな偶然が重なって、かけがえのない友人と出会うであろうし、よき友を失うかもしれない。

友人と出会うチャンスはサークル活動や、学友会そして、教師を囲むゼミのなかにたくさん秘められている。よく目を開けてよく耳を傾けて友と話をう。こちらから友になりたいと思っても、相手は逃げるかも知れない。そのときは、きつとこちらに打算が働いているにちがいない。こちらの気持ちを素直に純粋にしたら、よき友の側から近づいて来る筈である。

第二に、「人生には公式なんてないんじゃないか」の言が頭のすみに残る。日本社会の特徴だと思いが、「普通は」とか「世間に申し訳ない」とか言つて、人間の行動や思考を漠然とした基準に置きたがる。しかし若者は、何時の時代もそうだが、なにか自分のやりたいことがあるような気がしながらそれが何か掴めず模索する時間を必要とするものだ。そのやりたいこと、自分が夢中になつて燃焼するのは、やつてからわかるのが殆どであつて、ではそのきつかけはなんだつたかと考えると、全く各人各様で公式などあるはずがない。学生諸君は今、その模索の時代にいるのだ。親のスネを堂々とかじれ。二十代にどれだけ無駄をしたかによつて将来は変わってくる。目の前の効用を追うな。役に立つ立たないかの判断基準だけで物事を見るな。

「何故か?」と共通の疑問に対して互いに議論できる友人、二冊の書物を互いに読んで解釈の違いを語り合える友人、今考えている疑問をぶつけられる教師、ひとつの趣味、課外活動などで、互いに楽しみ合える友人、教師、諸君は二人一人の個性でそんな人間を求める努力をして欲しい。特にこの大学には誰一人として同じ専門をもった教員はいない。み

んな専門のちがう個性豊かな人達である。この特徴を生かして学生二人一人どんな発掘をするか、胸がわくわくしてくるではないか。所定の単位をとることだけを目的にしていたのでは、公式のない君の人生の模索は、何かを取り逃がしたことになるのではないか。



大学で学ぶために

落ちこぼれないための

三つの切り替え

学習指導委員長

竹並 輝之

入学おめでとう！

インターネットを通して世界中の情報にアクセスすることができ、また世界中の仲間とリアルタイムにコミュニケーションできる現在、国際化、情報化について勉強するべく本学に入学した君達に対する、社会の、また両親の期待は大きい。今君達は、難関の入学試験を突破してほっと息ついたというのが本音ではないかと思う。しかし、ここで小休止してはいけない。めまぐるしく変化する国際化、情報化の世の中で、社会人として大きく活躍するための準備期間として、四年間の大学生活がすでにスタートしたのだという認識に、早く気持ちを切り替えることが大切である。

では、これから過ごす大学での勉強は、高校時代の勉強方法とどのように違うと考えたらよいのであろうか。高校では、大学受験に向けて、知識を覚えることが目的の、暗記中心の勉強をしてきたといつてもよいであろう。これに対し大学では、自分で調査すること、論理的に考えること、解決方法を工夫すること、自分の意見をまとめて発表することなどが、勉強の中心になる。社会に出てから直面する問題は、千変万化、同じ問題は一つとない。ほとんどの問題に正解はない。いろいろな解決法が考えられるが、どれも間違っている。考えているうちに問題が変わってしまうこともある。暗記している知識だけでは問題解決はできない。すなわち、問題を分析し、情報を集め、状況に応じ柔軟に思考し、判断し、解決方法を工夫し、他人を説得する。そのプロセスが問われるのである。こうした思考方法、行動方法を大学の間に学ぶのであるから、早いうちに勉強の方法を、暗記中心から思考中心に切り替えて欲しい。

君たちの大多数はまだ成人式を迎えていないが、大学では君たちは一人前の大人として扱われる。高校時代と違って、先生は、これはやるな、あれをやれと君たちの行動を束縛はしない。しかし、自由になるということは、自分で計画を立て、自分の責任で勉強しなければならぬということである。先生との関係は、大人と大人の対等の関係であると考えてよい。物おじせず、先生と議論し、相談し、自分の行くべき道を自分で探す、成人としての自覚を持った行動に切り替えることが期待されている。

以上三つの切り替えがうまくできれば、朝から晩まで勉強、勉強ということなく楽しい大学生活を送れること間違いはない。むしろ大学では、勉強以外の活動を活発に行つて欲しい。

最近のベストセラー「EQ—こころの知能指数—」講談社では、社会に出て成功し、充実した生活が送れるかどうかは、その人のIQ（知能指数：試験の成績の高低とはほとんど関係なく、むしろ自分自身を動機づけ挫折してもしぶとく頑張れる能力、快楽を我慢できる能力、自分の気分を整え感情の乱れに思考力を阻害されない能力、他人に共感でき希望を維持できる能力（これらを本書ではEQと呼んでいる）が優れているかどうかとの関係が深いといっている。特に重要なことは、EQは生まれつきのものではなく、そのひとの意識、姿勢、活動を通して向上していくものであるという論理である。

「学生時代に何を学ぶべきか」（講談社）では、各界の著名人が自分の大学時代を語っている。彼らの中で、将来自分は何をやりたいか、何になりたいかについて確たる考えをもつて大学に入学した人は少ない。ただし、全員が大学生の間にそれを見つけたために積極的に行動し、いろいろなことにチャレンジし、多面的な試行錯誤を行っている。サークル活動に熱中するもよし、ボランティアに参加するもよし、広く他大学との交流を広げるもよし、君たちも何かにとことん熱中してみて欲しい。そのような実践を通して身につけた積極性、自信、物事への取り組み姿勢（これ即ちEQ）こそ社会が求めているものである。

こころを学んでほしい

アメリカ文化論

情報文化学科 教授 内山 鉄二郎

「アメリカ文化論」では、＜アメリカン・ドリーム＞をキーワードにしてアメリカ文化の精神構造の解説を試みる。＜アメリカン・ドリーム＞とは、手短かに言えば＜成功の夢＞のことである。

アメリカ人は移民たちである。移民の動機は新大陸で成功すること。従って、移民たちは自己の人生の選択、決断、行動が正しかったことを証明し、確信するためには、成功しなければならぬ。成功しなかった場合、アメリカ人は自己の生き方の選択、決断、行動が否定され、自己の存在そのものが否定されたと考ええる。アメリカ人にはよしんば成功しなくても、＜成功の夢＞を切り捨てて生きることは考えられないのである。

アメリカ人に限らず何処の国の国民でも、＜成功の夢＞はもっている。しかし、アメリカ人にとつてこの夢はこのほかに重い意味をもっていた。

アメリカは多元的な社会であり、多元的な国家である。しかし、個人レベルにおいても、国家レベルにおいても、等し並びに自己の正しさ、強さ、豊かさに対する自己主張、自己確認をそれを裏返した絶望感、孤立感、強くて、激しい。それは他ならぬこのような精神構造から生まれて来ているのではない。

わが国の場合と比較しながらこのことを「アメリカ文化論」において学んでもらいたい。

情報システム設計

情報システム学科 教授 槻木 公二

現在の社会活動や企業活動の中では、多くのコンピュータが様々な形態で使われています。個人がワープロや表計算のために使っただけなら入ったソフトを買ってくれば済むでしょう。しかし、企業活動などのように、多くの人と組織が互いに係わり合う場面では、朝夕には、コンピュータを本当に役にたつ道具にすることはできません。ここに情報システムを設計するという大切な仕事があります。

講義では情報システム設計のプロセスとその方法論を学びます。設計というプロセスは即、コンピュータシステムの設計をすることではありません。まず、人の活動を含めて組織全体の活動などを十分に調査し分析することから始まります。

設計の最大のポイントは、人が行つべきこととコンピュータに委ねることの線引き、すなわち双方の役割分担をよく考えて決めることにあります。コンピュータが全てとか、逆に無視するとか言うように偏食をしてはいけません。

従つて、実際に「良い情報システム」を設計できるようにするには、この講義だけでは足りません。新しいコンピュータ技術やソフトウェアの動きを知ることとは勿論大切なことですが、社会生活や経済の仕組み、社会組織や企業組織の仕の流れ、問題解決の論理やアルゴリズム、データ解析や分析の方法などをつかりと学んでおく必要があります。

新入生諸君へ

「アジル企業」という言葉があります。俊敏な企業というような意味で、状況の変化に機敏に対応して、自己変革出来る企業のことをいいます。本学は新潟のフロンティアに現れた新設大学で、いうなれば、「アジル大学」になるのに最も適している大学です。「自由の精神」と「先端テクノロジー」に恵まれているからです。これをすばらしい場所にするのも、つまらない場所にするのも、教職員と学生三人ひとりの「志」にかかっています。誰か一人だけで成務できるような簡単な事業ではありません。新入生の皆さんには、この事業の二翼を担うメンバーになって欲しいと思います。自分の貴重な青春の二時期を過ごした母校を、愛するに値しない故郷にしたら、つまらないではありませんか。堅く結ばれた友垣ができて初めて、「こを」希望の革命（希望を新たにする）の地にすることが出来ます。先輩の二年次学生に、情報システム学科では先輩からの言として大学生生活のアドバイスと、諸君には目新しい科目である「基礎演習Ⅰ」および「基礎演習Ⅱ」という科目を、また、情報文化学科では「年次から始まる『教養演習』のゼミの風景を語ってもらいました。これは早く大学生生活に馴染み、新しいタイプの大学を目指す本学の「人間形成」プロジェクトに、勇んで参画して欲しいという願いからです。ここに紹介したのはほんの一部の学生の声ですが、皆さんの先輩が生き生きと学生生活を送っている様子が伝わるでしょう。皆さんも自分の空間の創造に励んで見ませんか。一期一会の出会いの空間というものを体験出来るかも知れません。

編集係

先輩からの一言

大学生活はあなた次第

情報システム学科二年 富井 大智

御入学おめでとうございます。いま、皆さんは最高の春を迎えられたことだと思います。

さて、これからみなさんにはどのような大学生活が待っているのでしょうか。それを決めていくのはあなた次第です。大学生活の日々を楽しめるものにするのも、つまらないものにしてしまうもの、そしてこれからの人生をどのようなものにするのかも、全てあなた次第なのです。

今までは、母校の先生方に、勉強において、人生において様々なアドバイスを受けてきましたが、これからはあなたから、教授や先輩方にアドバイスを求めていくべきです。

先輩方はこうして多くのことを学び社会に通用する自分を作り上げています。

皆さんの友人のなかには中学、高校を卒業し、既に一人前の社会人として、立派に働いているひとも多いでしょう。

私たちは専門的な勉強をする価値のある人間として選ばれて大学へ入学したのです。この大学で多くのことを学び取りこれまでの自分より、一回り大きくなって卒業していきましょう。

課外活動いとかし

情報システム学科二年 山口 潤

新入生の皆さんには是非、課外活動に参加してもらいたいものだ。野球部や陸上部に入り、太陽に向かって汗と涙の青春のページを築くのもよし。フィットネス研究会に入って、スタミナドリンク

を飲みタフガイを目指すのもよし。文化・学術的にESSクラブでなりきりバイリンガルを演じてみるのもこれまで一興。

MMCでは、電脳戦士となり世界の人々とアクセスするのも趣き深い。

はたまた、学生会執行部に参加し大学を支配することを企てたり、学生会会報編集委員になつて、流ジャナリスト気取りで、常に手帳と録音テープを手にとって大学の隅々まで取材し、レポートすることだつて結構面白い。

自分の相性と合うものがなければ、メンバーを募り斬新なサークルを作ること可能だ。

NUSにはまだ伝統はないけれど、計り知れないほどの可能性があるのだ。積極的にチャレンジしよう。

楽しい大学生活にすることをかき。

何事も積極的に

情報システム学科二年 御代田 大

とりあえず、入学おめでとう。

僕なりに充実した大学生活を過ごすために大事なものは何かということを考えてみた。その大事なものは、積極性であると思う。

たとえば、僕は前期のときにはあまりクラスの人とつきあうこともなくて、同じ高校出身の仲間といつも一緒にいた。その時は、それはそれで楽しかったけれど、何だか大学と家の往復をしているだけのようになってしまう。大学に行くのが嫌だった。

後期にはいつてクラスの人と遊ぶようになって、知り合いが増えた。その時から、大学がただ講義を受けるだけの場所から仲間の集まる場所になつて、以前より楽しく毎日を過ごせるようになった。

積極性が大事であるということは、部活やサークル、授業、大学の行事への参加にも言えることなので、物事に前向きに取り組んで欲しい。

良い仲間を作ろう

情報システム学科二年 皆川 敦

大学で良い成績を取る方法を教えよう。

その方法とは、仲間を増やすことだ。なぜなら、大学はノート持ち込み可のテストがあるので、たくさんノートを書いている人と仲間になれば、その「コピー」が手にはいる仕組みなのだ。だから、テストになると急に頭のイイ奴と友達になる要領のイイ奴もいるのだ。それに仲間がいればノートのコピーが仲間のネットワークを通じて手に入るのだ。（ただし、自筆のメモだけ持ち込み可の先生も増えている）。テストになると丁君のノートは、大ベストセラーになるほどの人気がある。これで私はあまり出席していない講義でもAをとつたのだ。ハッ、ハッ、ハッ。

しかし、仲間がいると、授業中におしゃべりをして講義に集中できず、後悔する悪い面もある。その面で、私の仲間は悪い仲間だ。しかし、大学は勉強するだけでなく、一生付き合う仲間を作る場なのだ。私はここで大勢の良い仲間に出会えたと思っている。諸君は共に勉強もする良い仲間を作つて欲しい。そうすれば良い成績も取れ、良い大学生活が送れると思う。



生活にメリハリを

情報システム学科二年 笠間 豊

新入生の皆さんで入学おめでとうございませう。皆さんは長い間「受験」という言葉にしばられてきて、やっとのことで試験に合格して、この大学に入学することができ、解放感でいっぱいだろうと思います。しかしそのままだらだらと過ごしてしまつては、大学生生活がつかなくなつてしまつてしまいます。

私も入学する前は大学というところは「生懸命勉強しないでも、遊んでばかりいても、何とかなる」と考えていました。しかし決してそんなことはありません。勉強するときはしっかり勉強し、遊ぶときは遊ぶというように生活にメリハリをつけていかないと大学生活が長くなるだけで、無駄な時間を多く過ごすということになってしまいます。そんなことにならないようにまず規則正しい生活を送るように努力するべきだと思います。そうすればきっと楽しい大学生活を送れるでしょう。

基礎演習Ⅰという

科目について

情報システム学科二年 酒井 美紀

基礎演習Ⅰは一言で言つてしまつと、面倒な科目のひとつでしょう。なぜって、あなた、人前でレポートを発表できますか？

二週間に一回くらいは自分の番が巡つてきて、ちゃんと調べてきたことをまとめて話さなくちゃいけないんです。全部が全部そういう形で授業が進められるという訳ではないんですが、でも、一年過ぎると、なんだか「ああやったな」なんて思つちゃうわけなんです。グループ（いわゆる討論）をや

つたことを思い出すと、がんばったなあ、とか自画自賛しちゃたりして。わたしなんかこの二年で人間、切羽詰まつても何とか成るもんだなあつて学んだらして。

しかし、この科目は文章表現力や人前で話す度胸などを向上させるには大変役立つものでしょう。そしてそれが今のわたしたちに欠けているものなのではないでしょうか。

基礎演習Ⅱという

科目について

情報システム学科二年 相田 健太郎

情報システム学科の学生が、1年次後期に必修として受講することになる基礎演習Ⅱについて説明しよう。

どのようなことを学習するかというと、まず、電子による演算はどのようにして実行されるのかということを理解し、ワンボード・コンピュータをマシン語で動かすことにより、コンピュータの基礎を学び、筋電図・反応時間・ストローク効果、トラッキングの実験を行い、人間の情報処理の特性を考察します。

この授業では、皆さんが初めて聞くことが数多くありますので、前もってテキストを読んで、予習をしておくことが必要です。また、一度欠席すると、その後の授業についていけなくなります。そして、一回の授業が理解できなければ、次々に解らないことが増えてきますから、その都度理解することが大切なのです。皆さんがこれから学習して行くことを、社会に出て役立てるためには、欠くことのできない基本のコースですから、しっかりと身をつけて下さい。

我がゼミを語る

會田ゼミ

情報文化学科二年 山際 敦

會田ゼミでは、持ち回りでテーマを出し合い、それを元にディスカッションを行うという形式で授業が進められました。当初は會田先生が政治社会学を専門とされているので、『日韓関係』や『日米安保は変質したか』というような堅いテーマとなりました。しかし明らかに気負いすぎて、気がつく

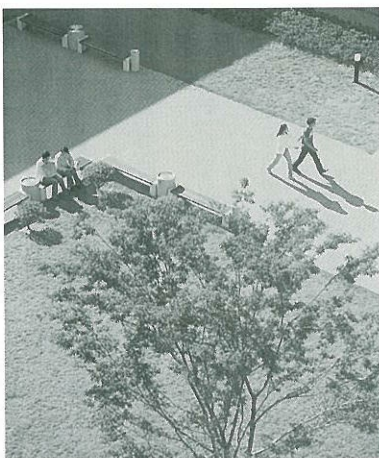
と、その中で私を含む一部の物好きだけが無秩序に暴走を始めるという壊滅的状況……。その反省をきっかけに、『新潟における大学のありかた』や『ワールドカップ日韓共催』といった身近な問題に焦点を当てているうちに、『夫婦別姓』、『原発』、『安楽死』、『差別』、『高齢化社会』等の時事問題がどんどん出てきて、いつのまにやら、『朝までナマテレビ』的な活気が生まれていました。結果として、政治社会学とは全く違う方向に行つてしまったように思いました。だが、會田先生によると、『導入部だけで一年経つてしまった感じもあるが、この種の問題を、自分の問題として取り組むことがまさに政治社会学なのだ』ということで、會田先生の評価は意外に高かったようでした。

「明石ゼミ」

情報文化学科二年 三富 勇樹

担当の明石先生は剣道をやつている武道家で、真面目過ぎるくらい真面目ですが、反面、とても愛敬のある先生でもあります。大学に入つてからの我々を、陰から支えてくれた心強い味方でした。「漢（おとこ）のなかの漢（おとこ）」というのは、明石先生のような方をいうのだらうと思ひました。なにしろ、我々にとつて、難しくて苦手な法律の内容を、わかりやすく詳細・丁寧に教えてくれるのですから「笑福亭仁鶴以上？」ともいえます。

ゼミの内容を説明します。前期は各自が新聞の社会問題の記事を使って、幾つかの問題を提起し、それについての各人の考えを発表して討論する形をとりましたが、後期は、個人的な感情を排して、二派に分かれてディベートし、最後に先生が総評を加えるという形をとりました。ディベートは最初は難しく意見はあまり出ませんでした。ディベートは最初にみんなの口から活発な意見がどんどん出るようになります。内容も豊かになりました。この体験はとてもいいものであったと確信しています。社会問題、特に法律に係わる問題に興味ある人は是非明石ゼミを選んで下さい。



市岡ゼミ

情報文化学科二年 荒木 麻衣子

市岡ゼミの学習は、新聞や図書から、何であれ、自分が興味を感じた問題をゼミに持ち込んで、みんなの意見や議論を求める実験学習です。自分と全く反対の考え方を聞いて驚いたり、改めて考えさせられることが多くありました。自分の考えをより明確に話し、説得する力が身についたと思います。

後期からは、語学の選択に合わせて、各人が選択したことの母国の文化比較を試みるという新局面に入りました。今年の市岡ゼミには、英語、ロシア語、中国語を選択した学生がいましたから、三ヶ国についていろいろの側面の情報と知識を得ることができました。市岡ゼミで私がよいと思ったことは、テキストや教科書を使わずに行うことです。型にはまらず、広い分野で自由に意見を言い合うことができます。このやり方が私には非常に合っていました。市岡ゼミで本当によかったと胸を張って言えることができます。

海野ゼミ

情報文化学科二年 佐々木 亮

海野ゼミ、それを三言でいうと、「花崗岩」(みかげ石)です。わがゼミは良くも悪くも、相当癖のある面々が集まっています。という趣が強いからです。具体的に言いますと、時々妙な発言をして全員を爆笑の渦に誘うものが居たり、思いがけなく故郷のお土産を持ち込んでみんなをよろこばせたりする人物が現れたりする。大変にぎやかな連中の集まりなのです。

さて、わがゼミが課題にしている国際問題ですが、もちろん外国に起こった、あるいは起こっている問題、

事件、緊張をめぐるテーマですから、身近な問題というわけにはいきません。私も初めは非常に戸惑いましたが、回数を重ねることに面白さが分かっています。

香港の中国への返還も目前に迫り、アジア新時代の世紀が始まるうとしています。あなたも海野ゼミで日本のアジア外交を大いに論じてみませんか。クラスのゼミ員の親睦を深めるためのリクリエーションも多く、私はよい指導者(先生)に恵まれたと思っています。

越智ゼミ

情報文化学科二年 箕輪 薫

私と越智先生との出会いはフレッシュマン・キャンプでした。あれから早二年、また春がやってきました。それはさておき二年次の越智ゼミの風景について、新入生のみなさんに語ることにします。最初に言っておきますが、先生はかなりアクが強く、非常に味の濃い人なのです。林檎にマヨネーズをかけたような食感とでもいいでしょうか、でも、かじって見ると意外と美味しいんです。

さて、問題のゼミですが、先生が予想されていたよりも私たち学生が未熟であったために、学生中心であるべきゼミの進行を先生に任せてしまうなど、改善すべき点を多く残したまま終了してしまいました。しかし、厳しい中にもどことなく和やかな雰囲気であったことは確かで、気がつけば私、二年次のゼミも、越智先生を選択してしまいました。「麗しの越智先生、またよろしくお願いいたしますます。」と言わせていただきます。

佐藤ゼミ

情報文化学科二年 高見 明希

佐藤先生のゼミは他の先生方のゼミと少し違うと私は思う。このゼミは、特定の作家を取り上げて、その作品をたくさん読んで行くという形式だ。

まず、前回時に決められた作品を読んで、感想を発表する。この感想文の長さは原稿用紙二枚と、とても少なめ。そのあとに先生の解説が続く。自分が思っても見なかったような考え方があったりしてびっくりする。次に全員が順に作品を音読するが、たまに先生の解説が割り込む。最後に再び全員が感想を言いつつ述べ、先生の解説となつて授業が終わりになる。

今年は太宰治が取り上げられた。彼の作品は短編が多くて読みやすい。先生の言われる「太宰節」は、奇抜で、確かに面白い。

ひとりの作家を集中的に読むようなことは、私たちは減多にしない。人を知るとはこういうことなのかを学んだ貴重な時間でした。



就職指導委員会

委員長 池田 庄治

一年次生の皆さん、入学おめでとうございます。就職は、その人にとって、まさに一生の問題であり、しかもその就職先には民間企業や公務員・教員・自営業など色々あります。また、更に資格を取得したり、大学院へ進学するなどの道もあります。本学では、二年次の十月には「進路意識調査」を行い、三年次の九月には「進路登録カード」を就職課へ提出して戴きます。

しかし、就職の準備は二年次から始めてください。入学後二年か一年半かけて、自分の適性や性格・能力などを客観的に分析してください。それを基にして、本学卒業後の進路について確かな基本計画を立てることが必要となります。

このためには、

- ① 毎日、新聞を必ず読み、毎日二回はNHKテレビのニュースを必ず見てください。
- ② 本学でのどの授業も熱心に勉強し、クラブやサークル活動にも積極的に参加してください。
- ③ 二階の「就職資料コーナー」にある多くの資料や情報を、意欲的に活用してください。
- ④ 親やクラスの先生など第三者からも十分に意見を聞いて、相談してください。

当委員会は、教員六名(情報文化学科三名、情報システム学科二名)と、事務局職員一名の計八名で構成されていて、皆さんの相談に対応しています。

海外研修でカルチャーショックを体験

言葉が通じたこと

情報文化学科四年 森本 恭子

言葉が通じなかったこと

一年半しか勉強していないけれど、一年半も勉強してきたはずなのに

思っていることの半分も伝えられなかった

でもネー(はい)とアニー(いいえ)

アンニョンハセヨ(今日は)

カムサハムダ(ありがとう)

ケンチャナヨ(かまいません)を

すらすらといえたことは

ほんとに小さなことだけど

ほんとに大きな自信になった

言葉が通じたこと

私が韓国語を話せなくても

ツアーコンダクターのソルさんや

高麗大学のヒジョンさん

ホームステイ先のミオクさんは

日本語がとても上手だった

彼女たち以上に

おじいちゃんやおばあちゃんは

「昔習ったことだからもう忘れたよ」といながら

とつてもとつても日本語が上手だった

笑顔で話しかけられると

なおさら言葉が出てこなかった

広さ・アメリカで感じたこと

情報システム学科四年 樋口 貴子

初めての海外研修はとても有意義であった。アメリカ

カは、やはりスケールの大きな国、ということを実

感した。見渡すかきりの大地、果てしなく続く広

い道、人も車も建物も大きかった。

ヨセミテ国立公園では、目の前に広がる雄大で美

しい大自然に感動した。そのすばらしい大自然の

なかにいると、人間とはとてもなくちっぽけなも

のだと感じた。

スタンフォード大学とU.C.I.A.(カリフォルニア大

学ロサンゼルス校)を見学したが、こどもキャンパ

スの広さに驚かされた。所有地の一部を企業に貸し

ているが、そのほかにもまだ使われていない土地が

あるそうだ。キャンパスが広いので、教室の移動に自

転車を使うことや、緑も豊富でリスが自由に遊ん

でいたことなど、驚くことばかりであった。両大学

の学生と交流を持つ機会があった。彼らが明確な

目標を持ち、積極的に授業に取り組んでいること

に感心させられた。

アメリカは、日本のような殆ど同じ民族からなる

国ではないことを実感した。様々な人種が当たり

前のように共存しているように見えた。

世界はとても広く、自分のいる所がすべてではな

いことを知ることができた。また、外国を知ること

は日本を知ることにもなるのだと思う。

マスコミ

記事から

重油回収ボランティア

二月にロシアのタンカーから流出した重油が新

潟県中部に漂着した。当大学でも、明石先生ら三

名の教員の呼びかけに対して、百十三人が重油回

収ボランティアに「登録」した。二十六日にそのう

ちの学生二十名と教員三名が重油回収の作業に

参加した。

この活動について、朝日新聞は二月二十七日に写

真入りで、大きく報道した。記事の一部を紹介する。

「重油が次々と漂着する中、新潟県新潟市では、新潟

市の新潟国際情報大学の学生約二十人が回収作

業に加わり、強風で水煙りが上がる中央海岸の浜

辺で住民や町職員三百人とともに黙々とシャベル

を動かした。(後略)」



湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 會田 彰

とこしへにけふのいのちの花やかさ

かなしさを君忘るなけれ

若山牧水が友人に贈った祝福の歌です。大学広報第

二号は「新入生歓迎号」といいたしました。「みずき野ニ

ユータウン・キャンパス」に、新しいいのちの灯が燃え

立つことを願って編集しました。生誕三才を超えたこ

のキャンパスを「希望の革命」の地に、言い換えれば「創

志創造」の拠点にしたいという願いがあります。牧水

の歌に「はなやかさ」と一緒に「かなしさ」が詠み込ま

れていることに注意して下さい。哲学者のキルケゴール

は「パラドックス(逆説)の魅力を解さない思考者は

感受性の乏しい恋人のように無味乾燥でどうしよう

もない」といっています。北朝鮮共和国の思想的支柱

であった高官の亡命のニュースが世界に衝撃を与えて

います。新しいミレニアム(千年期)に移行しようとい

う時代のパラドックスを象徴するような事件です。「国

民国家からネットワークへ」という文明的な逆転の

潮流が生んだ悲劇だからです。世界内存在である人間

にこの悲劇は避けられません。むしろ、時として悲劇

と知りつつそこへ飛び込む決断をすることがその人

の生きている証しであることもあります。世界で起こ

るビッグバンは小さな我々一人の心の中でも、成長と

一緒にいつも起こります。だから「若き日は安げなき

こそおかしけれ」なのです。松崎学生部長の巻頭言は、

皆さんの意義あるキャンパス・ライフを薦める懇切、

的確なアドバイスです。IQからEQへの転換の薦め

である竹並学習指導部長のメッセージをはじめ、先輩

二年次学生のゼミ紹介を借りたメッセージと、今回は

意義あるキャンパスライフ創造のオンパレードです。

若き日の牧水にはこんな歌もあります。激論したあとで、

ひとりこんな「かなしみ」にひたるのもいいでしょう。

愚かなり阿呆鳥の啼くよりも

わがかなしみをひとに語るは